

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

○建学の理念

- 1 清らかな自然環境を十分に活かした理想的教育研究の場の建設をめざす。
- 2 少人数教育により人間的接触を深め、全人的人間形成をめざす。
- 3 専門的技術的教育のみに偏せず、広い社会的視野の涵養をめざす。
- 4 地域社会との密接な結びつきにより学問理論の生活化をめざす。

長野大学は、様々な学問分野の「ものの見方・考え方」を身に付けることを通じて、世間の常識や社会通念を問い直すことができる力を養い、自らの社会的役割を的確に認識できる人間を世に送り出すことを使命としている。特に、地域に根ざし世界に開かれた大学として、地域社会の発展を牽引することのできる人間の養成を主要な責務とする。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

1) 地域経営学部 地域経営学科

・養成する人材像

地域や企業の課題を解決するため、戦略を立て、実践し、新しい価値を創造する（イノベーションを起こす）ことを通じて、持続可能（サステイナブル）な地域社会の実現に貢献できる人材、すなわち「サステイナブルな地域社会の実現に向けて新たな価値を創造できる人材」を養成する。

・教育研究上の目的

地域経営学部の学びを通して、学生は次のような能力を身につけることを目的とする。

- 1 学際的・複合的な学びを通して、地域社会における生き方の価値観と規範を形成する知識・能力
- 2 システム思考を通して地域課題を多面的・総合的にとらえる能力
- 3 地域との協働により現実社会の課題に柔軟に対応する能力
- 4 学修・研究成果の社会還元・実装を通して地域にイノベーションを創出する能力
- 5 循環的な学びを通してサステイナブルな地域社会をデザインする能力

2) 共創情報科学部 共創情報科学科

・養成する人材像

情報科学を基盤とし、知能、デザイン、環境を横断的に学ぶことにより、人と自然環境が調和した共創社会の創造と実現に貢献できる理工系人材を養成する。

・教育研究上の目的

共創情報科学部の学びを通して、学生は次のような能力を身につけることを目的とする。

- 1 情報科学を軸に、それを支える理工系の基礎力と幅広い教養
- 2 AIを中心とするICTの仕組みに対する知識と応用力
- 3 人間中心発想でモノやコトを創り出し提案する能力
- 4 自然環境の保全と経済成長の両立方法に関する知識
- 5 人と自然環境が調和した共創社会の実現に寄与する課題発見解決力

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

<教員養成の目標>

長野大学教職課程は、長野大学憲章・長野大学ビジョンを踏まえ、全学的な教員養成理念として『自ら学ぶことを通して生徒の学びの支援し、科学的知見及び幅広い社会的視野に根差した教養を身につけ、地域社会やひとびとの生活にもまなざしを向けられる教員を養成する』を掲げている。

大学として教育の柱に「地域協働型教育」を掲げており、学生は地域をキャンパスに地域と友に学ぶことを重視している。教職課程においてもサービス・ラーニングを推奨し、低学年次から継続的な学校現場での体験活動を通じて、実践的指導力のある教員養成に努めている。大学が立地する上小地域並びに東御市教育委員会との包括連携協定により、圏域の小中学校においてサービス・ラーニングに従事している。

また、昨今の複数免許取得を推進する文部科学省の方策や学生等のニーズも踏まえて、玉川大学と協定を結び小学校免許特別プログラムを開始している。長野大学は1学年340名定員の小規模大学であり、教職課程を履修する学生は毎学年20～30名程度である。小さな大学であることを活かし、学生を中心とした顔の見える教員養成を行っている。

<教員養成の計画（全学共通）>

本学の教職課程の履修学生は1学年あたり40名と非常に小規模である。社会福祉学科において特別支援教育課程を開設していることを活かして、教職課程コアカリキュラムの事項「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」（本学では特別支援教育概論）はもちろん、「発達障害教育総論」を大学が独自に設定する科目に位置づけ、近年学校教育において大きな課題の一つである発達障害児導性との理解を促している。また、「学校体験活動Ⅰ・Ⅱ」においても特別支援教育課程の教職専任教員を担当者にするなど、地域の小中学校に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する理解力・指導力を育成している。

「教育の基礎的理解に関する科目」および「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」「教育実践に関する科目」については全学科共通で開設をしている。体系的な学びを実現していくため、1年次は「教育の基礎的理解に関する科目」8単位、2年次は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」10単位、3年次は「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」6単位と「教育実践に関する科目」として『教育実習指導』を履修する。特に、サービス・ラーニングを重視し、初年次から学校現場で活動することを念頭に『特別支援教育概論』を1年次に配当し、通常学校の現状と今後のインクルーシブ教育の担い手となる学生への意識付けを行っている。

学年毎の教職課程履修者が全学的に20～30名という小規模な大学である強みを活かし、各講義では講義形式での講義においても演習を重視しているほか、実務家教員を中心に「学校現場での課題」を取り上げ、実践的な教育を意図している。各講義については、教職課程コアカリキュラムに基づきシラバスが構成されているほか、履修カルテにおいて当該科目が重点的に扱う「指標」を定めており学習者自身が振り返られるように工夫している。また、各学生は学修ガイドに基づき自分の履修を管理することが求められているが、毎年度の変更点もあり学生からはわかりにくいとの声が上がっている。そのため、履修カルテにおいて自分自身の単位修得状況が確認できるように工夫するとともに、令和4年度にはカリキュラムツリーを作成し、自分自身の学習過程の現状を把握できるようにしている。

「各教科の専門的事項および指導法に関する科目」については、各学科が責任をもって編成している。特に教科に関する専門的事項については、大学教育センターと連携を図りながら、4年間で無理なく履修できるようにカリキュラム編成を行っている。

「教育実践に関する科目」については、3年次で教育実習指導を、4年次に教育実習および教職実践演習を開講している。いずれの科目も前提となる科目の単位修得はもちろん、科目GPA、出席状況、教職行事への参加、履修カルテの作成等を条件としている。条件を満たすことが難しい学生に対しては、履修カルテ作成時の面談に加えて、教職センター運営会議で学生の学修状況を確認の上、教職アドバイザーが適宜面談を行うなど、履修を進めるための支援を行っている。

<教員養成に関わる学生支援>

長野大学の教職課程では原則として4年間かけて履修することとなっている。しかしながら、1年次の開始当初では履修を完遂できるか不安な学生もいることから、1年次後期、2年次前期からの履修登録も認めている。教職課程の履修を希望する学生は、「教職履修希望届」の提出、「教職課程のgoogle classroomへの登録」、「課程履修費の支払」を以て正式登録となる。1年次後期または2年次前期から履修する場合については必修科目の受講が変則的となるため、教職センター長と面談を実施し、その結果を教職センター会議で協議の上、履修登録の可否を判断している。

また、教育実習の要件として毎回のガイダンス、履修カルテの作成・面談、教職課程が開催するイベントへの参加を課している。そのような機会を通して、学校現場の教職員との関係性や、実習等のリアルな状況、学年を超えた学生同士の関係構築の場を提供している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

1) 地域経営学部地域経営学科（中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科）

人口減少時代をむかえた地方都市において、持続可能な地域社会に向けたイノベーションを実現させることが、より強く求められている。地域経営学科では、持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成を目指し、これまで以上に学際的かつ地域協働的な学びを展開していく。特に、長野大学では、長野県上田市に設置されている公立大学であることを念頭に、『若者を地域で育て、地域で活躍してもらい、地域に定着してもらおう』ことを目的とした「地域人材の循環システム」、『この地で様々な領域で発生する課題を地域住民、地域企業と協働しながら解決する』ことを重視した「地域課題の解決システム」を教育・研究の柱の一つに据えている。

このような大学・学科の目標を踏まえ、教職課程では自らが持続可能（サステイナブル）な地域づくりの実現を目指すとともに、更なる未来に向けて生徒に対して地域に目を向け、地域の魅力を探求し、持続可能な地域づくりの担い手を育成できる教員を養成することを目的とする。

具体的には、以下のような学びから構成する。

- 1) 学科全体の学びを通じて、自ら課題を発見し、課題を解決に導けるような柔軟な思考力・確かな課題解決力を身に付け、地域に新たな価値を創造できる力を養う。
- 2) 公共政策領域の学びを中心に、法律関係、政治学、社会学に関する学びを深めるとともに、「サステイナブルな地域づくりを推進する政策プロセス」を身に付けるため、街作りに関わる科目を展開する。また、教養科目として、哲学・倫理学・心理学に関わる科目を学ぶ。
- 3) 環境ツーリズム領域の学びを中心に、地理学、環境・観光系科目を学ぶ。また、環境や観光の観点から「信州の地域資源を活用したサステイナブルな街作り、環境保全モデル」を提案できる素養を身に付けるため、観光街作りや環境教育にかかわる科目を学ぶ。また、教養科目として力士系科目、特に「信州地域史」を中心に、信州の歴史・地理について深く学ぶ。

2) 共創情報科学部 共創情報科学科（高等学校情報科、中学校・高等学校数学科）

共創情報科学科では、情報科学を基盤とし、知能、デザイン、環境を横断的に学ぶことにより、人と自然環境が調和した共創社会の創造と実現に貢献できる理工系人材を養成することを目的としている。

教職課程では、最先端の情報科学を基盤に、地域協働型教育を通じて地域の課題を解決できる教員を養成することを目的とする。また、地域における教員不足が喫緊の課題となる中で、地域のこれからの理工系人材を養成できる教員を育成することで、更なる地域貢献を目指していく。

具体的には、以下のような学びから構成する。

- 1) 学科全体の学びを通じて、「人」「物（テクノロジー）」「事（自然）」をAI等を活用して価値を創造できる力を身に付けるため、数学を基盤に情報科学を学ぶ。
- 2) PBLを中心に、地域のステークホルダーとともに学び、課題解決をすることを通して、主体的・対話的な学びを展開できる素養を身に付ける。
- 3) AIを活用できる人材となるため、数学を学ぶ。
- 4) 「知能コース」では、AIを中心とするICTの仕組みと応用方法について学ぶため、高校情報科の専門的な学びに資する人工知能、情報ネットワーク／セキュリティ、深層学習といった科目を学ぶ。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

1) 地域経営学科

①中学校社会科

地域経営学科は環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科および企業情報学科（経営分野）を前身とする。両学科では、地域に根ざした大学基盤の形成を図りながら、環境ツーリズム学部では持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成、また企業情報学部では企業や社会に新しい活力を生み出す（イノベーション）人材の育成に努め、地域との協働による多様な教育研究・社会貢献活動を展開してきた。人口減少時代をむかえた地方都市においては、こうしたシステムをより効果的に機能させ、サステイナブルな地域社会に向けたイノベーションを実現させることが、より強く求められている。新たに設置される地域経営学部地域経営学科では、持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成を目指し、これまで以上に学際的かつ地域協働的な学びを展開していく。

教員養成については、環境ツーリズム学科において、『社会科学的知見と幅広い教養に裏づけられ、地域社会に貢献しうる問題発見、解決能力のある使命感・責任感、社会性と指導力を持つ教員を養成する』ことを目的に、中学校社会科、高等学校地歴科、高等学校公民科の教員養成を行ってきた。地域に課題を発見し、地域共同しながら学びを深め、地域の課題解決を求めていく環境ツーリズム学科、および新たに設置される地域経営学科の学びの在り方は、まさに学校が今日求められる主体的・対話的な深い学び、探究型の学びを体言しているものである。実際、現行学習指導要領が展開される中で、環境ツーリズム学科には高大連携や、探究型学習の協力の依頼が多く寄せられている。長野大学の地域共同型学習を終えた学生たちが教員として次世代の生徒たちを指導することは、長野大学が教育と共に柱に掲げる「地域人材循環システム」の構築にも大きく貢献できると考える。

以上のことから、これまでの長野大学環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科の学びを発展させた地域経営学部地域経営学科において、「地域人材循環システム」の構築の観点から貢献すべく、中学校社会科の教員養成を行う。

②高等学校地歴科

地域経営学科は環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科および企業情報学科（経営分野）を前身とする。両学科では、地域に根ざした大学基盤の形成を図りながら、環境ツーリズム学部では持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成、また企業情報学部では企業や社会に新しい活力を生み出す（イノベーション）人材の育成に努め、地域との協働による多様な教育研究・社会貢献活動を展開してきた。人口減少時代をむかえた地方都市においては、こうしたシステムをより効果的に機能させ、サステイナブルな地域社会に向けたイノベーションを実現させることが、より強く求められている。新たに設置される地域経営学部地域経営学科では、持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成を目指し、これまで以上に学際的かつ地域協働的な学びを展開していく。

教員養成については、環境ツーリズム学科において、『社会科学的知見と幅広い教養に裏づけられ、地域社会に貢献しうる問題発見、解決能力のある使命感・責任感、社会性と指導力を持つ教員を養成する』ことを目的に、中学校社会科、高等学校地歴科、高等学校公民科の教員養成を行ってきた。特に、地理学文野は地域や環境、観光を学ぶ上でも重要な学問分野であり、地理学はもちろん観光系、環境系の専門科目を開設してきた。新設される地域経営学部においても「サステイナブルな地域社会の実現（地域経営）に向けて、地域の資源や自然環境を生かした地域づくりや観光まちづくりを推進できる人」を養成する地域サステナビリティコースが設置され、引き続き地理学分野における科目の充実が図られる。歴史的分野についても、持続可能な地域づくりをおこなううえで郷土の歴史を学ぶことは重要である。また、未来を見据えた時に単なる郷土の歴史ではなく、地域から世界に目を向けて、歴史を理解することが欠かせない。そのため、教養教育を中心に歴史系科目を開設してきた。この点は、地域経営学部においても重視されている。

地域に課題を発見し、地域共同しながら学びを深め、地域の課題解決を求めていく環境ツーリズム学科、および新たに設置される地域経営学科の学びの在り方は、まさに学校が今日求められる主体的・対話的な深い学び、探究型の学びを体言しているものである。実際、現行学習指導要領が展開される中で、環境ツーリズム学科には高大連携や、探究型学習の協力の依頼が多く寄せられている。長野大学の地域共同型学習を終えた学生たちが教員として次世代の生徒たちを指導することは、長野大学が教育と共に柱に掲げる「地域人材循環システム」の構築にも大きく貢献できると考える。

以上のことから、これまでの長野大学環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科の学びを発展させた地域経営学部地域経営学科において、「地域人材循環システム」の構築の観点から貢献すべく、高等学校地歴科の教員養成を行う。

③高等学校公民科

地域経営学科は環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科および企業情報学科（経営分野）を前身とする。両学科では、地域に根ざした大学基盤の形成を図りながら、環境ツーリズム学部では持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成、また企業情報学部では企業や社会に新しい活力を生み出す（イノベーション）人材の育成に努め、地域との協働による多様な教育研究・社会貢献活動を展開してきた。人口減少時代をむかえた地方都市においては、こうしたシステムをより効果的に機能させ、サステイナブルな地域社会に向けたイノベーションを実現させることが、より強く求められている。新たに設置される地域経営学部地域経営学科では、持続可能（サステイナブル）な地域づくりを担う人材の育成を目指し、これまで以上に学際的かつ地域協働的な学びを展開していく。

教員養成については、環境ツーリズム学科において、『社会科学的知見と幅広い教養に裏づけられ、地域社会に貢献しうる問題発見、解決能力のある使命感・責任感、社会性と指導力を持つ教員を養成する』ことを目的に、中学校社会科、高等学校地歴科、高等学校公民科の教員養成を行ってきた。

公民科の教員養成については、地域づくりの政治・経済的側面での学びを重視し、公共政策や社会学の観点から学びを深めてきた。新たに設置される地域経営学部地域経営学科では、地域サステナビリティコースが設置され、主要な学びの領域としては環境ツーリズム領域と地域公共政策領域が置かれる。地域公共政策領域では、「サステナブルな地域づくりを推進する政策プロセスを実現するために、地域のステークホルダーとの討議を通じた政策評価による自治体施策の有効性の検証と政策立案の支援」や「人口減少により環境変化する信州のまちなかを、より魅力的で暮らしやすい環境への再編を目指して、多分野の組織ネットワーク形成やまちづくり活動の創発の提案と実践」を通じて価値創造を図っていく。

地域に課題を発見し、地域共同しながら学びを深め、地域の課題解決を求めていく環境ツーリズム学科、および新たに設置される地域経営学科の学びの在り方は、まさに学校が今日求められる主体的・対話的な深い学び、探究型の学びを体言しているものである。実際、現行学習指導要領が展開される中で、環境ツーリズム学科には高大連携や、探究型学習の協力の依頼が多く寄せられている。長野大学の地域共同型学習を終えた学生たちが教員として次世代の生徒たちを指導することは、長野大学が教育と共に柱に掲げる「地域人材循環システム」の構築にも大きく貢献できると考える。

以上のことから、これまでの長野大学環境ツーリズム学部環境ツーリズム学科の学びを発展させた地域経営学部地域経営学科において、「地域人材循環システム」の構築の観点から貢献すべく、高等学校公民科の教員養成を行う。

2) 共創情報科学科

①高等学校情報科

共創情報科学科は企業情報科学部企業情報学科を前身とする。企業情報学科では、『社会科学と情報科学の知見に裏づけられた課題発見・問題解決能力を備えた教員を養成する』ことを目的に、高等学校情報科の教員養成を行ってきた。大学として「地域協働型教育」を掲げており、教職課程においてもサービス・ラーニングを推奨し、低学年次から継続的な学校現場での体験活動を通じて、実践的指導力のある教員養成に努めている。2020年度からは長野大学が存立している長野県上小地域の小校長会と教職センターが提携し学生のサービス・ラーニング先の確保や円滑な実施を行っている。一方で、企業情報学科で取得できる免許は高等学校情報科のみであり、高等学校情報科のみでの採用数が全国的に少ないこと、地域協働型教育においてプロジェクト型学習に取り組む中で教員志望はありつつも自分自身の興味を深めるために教職以外の進路を選ぶ学生が少なくないことから、免許取得者は必ずしも多くなかった。近年では、情報科学に関する社会的な関心の高まりから小中学校および高等学校における情報教育にも力が入られるようになり、同時に企業情報学科においても教員志望者が増加しつつある現状にある。

令和5年7月、文部科学省が創設したデジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うのを支援する「大学・高専機能強化支援事業」（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）の「支援1：学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等」に採択され、共創情報科学科により実現を目指している。新設される共創情報科学科では、地域の様々な課題を教育研究テーマとして採り上げ、地域と協働し、複雑化する社会課題や技術課題を解決する取り組みにより地域の発展に参与するとともに、これらの研究・教育を通じて人口減少、産業創生、環境問題など、地域を中心として産官学が連携する体制を構築することを使命とする。

上記のことから、企業情報学科で行ってきた教員養成および地域貢献を、共創情報科学科においては更に発展することを目標に、高等学校情報科の教員を養成しようとするものである。

②高等学校数学科

本学科の前身である企業情報学科では、高等学校情報科の教員養成を行ってきた。教職課程に対して興味がある学生は少なくないものの、高等学校情報科の教員採用数は僅少であり教職が現実的な選択肢になりにくく、教職課程の課程を修め教員免許を取得する学生は非常に限られている。他教科の免許課程の設置は長年の課題であった。

令和5年7月、文部科学省が創設したデジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うのを支援する「大学・高専機能強化支援事業」（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）の「支援1：学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等」に採択され、共創情報科学により実現を目指している。新設される共創情報科学科では、地域の様々な課題を教育研究テーマとして採り上げ、地域と協働し、複雑化する社会課題や技術課題を解決する取り組みにより地域の発展に寄与するとともに、これらの研究・教育を通じて人口減少、産業創生、環境問題など、地域を中心として産官学が連携する体制を構築することを使命とする。共創情報科学科では、これからのSociety5.0時代を切り拓く人材育成に向けて、地域に密着したDX・GX人材育成プログラムと高い倫理観を持ってSDGsの達成を担うリーダーの養成を目指している。そのため、新たに構築されるカリキュラムにおいては、数学についても線形代数や微分積分、統計学といった基礎的な内容はもちろん、数学を理解し・活用していくために、DX・GXに求められる高度な数学の教育課程も開設する予定である。そのことにより、高等学校数学科を開設するに必要な教育課程を展開することが可能となった。

上記のことから、企業情報学科で行ってきた教員養成および地域貢献を、共創情報科学科においては更に発展することを目標に、新たに高等学校数学科の教員養成を開始しようとするものである。

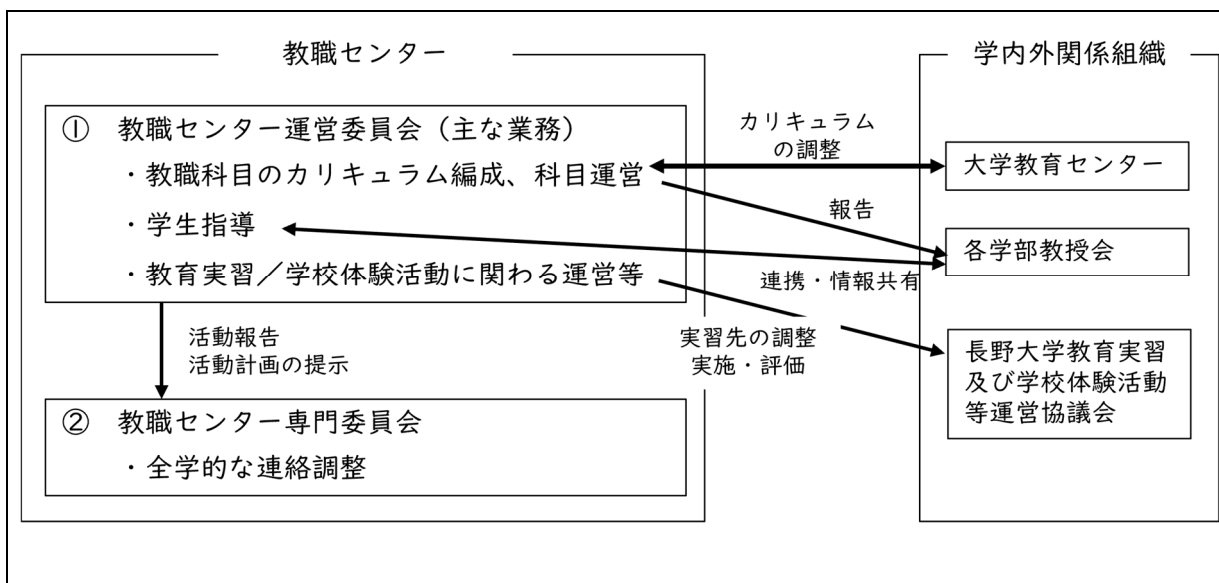
様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職センター
目的：	教職センターは、長野大学における教職課程教育の質の向上を図るとともに、教職課程を履修する学生を支援し、また、地域の教育機関と連携することにより、地域社会に貢献できる教員の養成に資することを目的とする。
責任者：	教職センター長
構成員(役職・人数)：	(1) センター長 (1名：原則として教授の中から学長が指名) (2) 副センター長 (1名：職員の中から学長が指名) (3) センター教員 (各学科教職専任教員 1~3名程度：学部長が推薦し学長が指名) (4) 教職履修学生に対するキャリア支援に関する教職員 (必要に応じて指名)
運営方法：	1) 教職センター運営委員会：各学科の教職課程専任教員により構成され、各学部と連携を図りながら、①全学教育科目の教職等資格科目の開発及び研究、②就職支援・教職相談に関すること、③教職課程認定申請に関すること、④教育実習の企画に関すること、⑤他大学との連携協定に関すること等の業務にあたっている。月1回教職センター会議を開催し、教職課程運営に関わる各種検討事項の協議・報告、各講義等での学生の様子を共有するなど教職課程の運営を担っている。また、教職センター会議で共有された情報は、適宜大学教育センターや各学部教授会へと報告され、全学的な教職課程運営の役割を果たしている。 2) 教職センター専門委員会：教職課程に係る教員が全学的に必要な連絡・調整を行う機関として教職センター専門委員会を置き、原則として年1回の専門委員会を実施する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

(1) 校長会：長野大学が立地する長野県上小地区の校長会と日常的に協働し、学校体験ボランティアや教育実習の受入調整等を行っている。

(2) 教育委員会：上田市教育委員会、東御市教育委員会とは年に数回意見交換を行い学校現場の課題や学生の活動状況を共有するとともに、教育委員会の要請に基づき教職専任教員が学校研修の講師等を務めている（年間100回程度）。

(3) 東御市：東御市教育委員会、東御市子どもサポートセンターとは2019年度より協力関係にあり、東御市からの要請に基づき保育園・小学校・中学校等の巡回訪問や学生サポーターの派遣、教育実習の受入調整等を行ってきた。2024年度には長野大学と東御市・東御市教育委員会と連携包括協定を結び、更なる協力関係の深化のための話し合いを行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： ①サービス・ラーニング

②学校体験活動

いずれの活動も、上小校長会、東御市教育委員会及び子どもサポートセンター、教職専任教員が仲介する形で実施をしている。

連携先との調整方法： ①上小校長会・東御市教育委員会及び子どもサポートセンターにて受入希望校（人数・時間・内容）を取りまとめ教職センターに通知

②教職センターから教職学生に対してオリエンテーションの実施

③学生から教職センター窓口に申し込み

④教職センター運営委員、上小校長会等にて実施予定校の調整

⑤実施予定校の通知

⑥学生より実施予定校への連絡、挨拶、日程確認

⑦サービス・ラーニング、学校体験活動の実施

具体的な内容： 各学校からの要請に基づき、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒の支援等を通じて、児童生徒の理解や授業のユニバーサルデザインの方法、教師の視点からの授業運営等について学ぶ活動である。

年度当初に上小校長会等がとりまとめた、各学校の希望を学生に通知し、学生は自分自身の予定や希望等を踏まえて体験活動に取り組む。主に1,2年生を対象にしており、学校体験活動Ⅰ・Ⅱの講義として単位認定を受けることもできる。学校体験活動としての単位認定を受けるためには、活動目標の設定、毎回の活動報告の提出、月に1回程度の担当教員との面談、活動報告書の提出、年度末の教職課程研究報告会でのポスター発表をこなすことが条件となっている。サービス・ラーニングについては、特に単位認定に関わる制限がないため、学生が自信の興味関心や事情に応じて学校での活動に取り組む。

<活動実績> ※学校は小学校・中学校・特別支援学校数、学生数は延べ数

令和4年度：21校73名

令和5年度：29校60名

令和6年度：17校36名

Ⅲ. 教職指導の状況

長野大学では教職センターが中心となり、各学科・事務局と協働しながら教員要請を行っている。

毎 Semester 開始前に教職ガイダンスを実施し、教職課程の概要や履修上の注意等について指導するとともに、教職課程学生向けの google classroom を設置しイベント・情報提供を行っている。また、全課程履修生に対して学部アドバイザーとは別に教職アドバイザーを配当し、日々の教職履修に関する助言・指導だけでなく、Semester 毎の履修カルテの面談や進路相談等も行っている。加えて、教職専任教員は上田市・東御市での巡回や授業研修、職員研修会を多く引き受けており、希望する学生は正課（教育のユニバーサルデザインと授業作り、専門ゼミナール、各種指導法の講義等）・正課外の取り組みとして、教員と一緒に研修等に参加し学校の現状と求められる専門性を学ぶ機会となっている。

各種実習等（サービス・ラーニング、介護等体験、学校体験活動、教育実習）の実施にあたっては、事前事後指導を個別に行うだけでなく、定期的にガイダンスを実施し、各学生に対して教職課程を履修する上での到達点や課題、これから頑張ることを意識するための面談等を実施している。教育実習については、事前事後の面談、実習期間中の学校への訪問等を頻繁に行い、実習先と連携協働しながら教育実習を展開している。

教員採用試験に向けては、採用試験を希望する学生を対象に教員採用試験対策講座を開催している。教員採用試験対策講座については、実務家教員の他、特別支援や全学教職専任教員が分担し、受験指導を行っている。

様式第7号ウ

<地域経営学科>(認定課程:中一種免(社会))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>学校教育の最新事情について学び、令和の日本型学校教育を支える教師のあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学概論では、教育とは何かについて理解する。 ・特別支援教育概論では、特別支援教育の理念・内容について理解するとともに教師として一人一人の児童生徒にいかに向き合うかについて学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本史概論、地誌概論、経済学概論を通じて、中学社会科の指導に必要な基本的な知識を獲得する。 ・専門科目の学修を通して、中学校社会科に関する科目を修得する。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について修得する。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」については、MDASHのリテラシーレベルに該当する科目であるデータサイエンス概論の修得を通して、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識を獲得する。
	後期	<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解し、学校現場体験も踏まえて自らの教職キャリア形成について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科指導法基礎では、社会科教師として求められる役割と授業作りの基本的な考え方について学修する。 ・教職概論では、教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教育心理学では、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を理解し、発達段階に応じた指導の基礎となる考え方を習得する。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋史概論、西洋史概論、社会学概論、哲学概論、倫理学概論を通じて、中学社会科の指導に必要な基本的な知識を獲得するとともに、専門科目の学習を通じて社会科に関する専門的な知識を獲得する。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「体育」に関する科目(スポーツ実技Ⅱ)を履修する。
2年次	前期	<p>教科の指導法や教育課程論を通じて授業作りのあり方について学ぶ。また、介護等体験や学校体験活動等の学校現場体験を通じて、教師の専門性や共生社会を実現する上での教師の役割について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論では、教育課程の意義や編成の方法を学修し、各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ・教育制度・経営では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・特別活動および総合的な時間の指導法では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえて展開される総合的な学習の時間の指導法指導に関わる必要な知識や素養を身に付ける。 ・社会科・地歴科教育法A/Bおよび社会科・公民科教育法Aでは、社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学、法学概論を通じて、中学社会科の指導に必要な基本的な知識を獲得するとともに、専門科目の学習を通じて社会科に関する専門的な知識を獲得する。

	後期	<p>教科の指導法を通じて授業作りのあり方について学ぶとともに、ICT教育の理論や方法を踏まえた教育の方法・技術について身に付ける。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育の指導法では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解する。 ・ 教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・ 社会科・公民科教育法Aでは、社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政治学概論では、中学社会科の指導に必要な基本的な知識を獲得する。 ・ 専門科目の履修を通じて、教科に関する専門的な知識を獲得する。
3年次	前期	<p>2年次までの学修を踏まえ、生徒指導・進路指導に関する指導のあり方について理解するとともに、具体的な教職キャリアの道筋について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導論では、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ・ 進路指導論では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
	後期	<p>教育実習指導を通じ、具体的な教師としての姿を描き、教育実習に向けた準備を進める。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の理論と方法では、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。 ・ 教育実習指導では、教育実習に臨むにあたって特に学習指導のあり方について学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の見方では、歴史学的手法を使って現代社会の諸問題を考察できるようになる。
4年次	前期	<p>3年次までに座学および現場で学んできたことを生かして教育実習を行い、教師の仕事の具体と自らの教師としてのあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育実習では、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
	後期	<p>4年間教職で学んできたこと、大学で学んだことを総括し、卒業後の自らの教職キャリアについて考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職実践演習では、教職課程の科目の履修により習得した専門的な知識・技術を基に、職務を遂行できる資質・能力が身についているかを確認するとともに、不足している知識・技能を補い、自らの教職への適性を考える。

様式第7号ウ（教諭）

<地域経営学科>（認定課程：中一種免（社会））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に設 定する科目	施行規則第66 条の6に関する 科目	その他教職課程 に関連のある科 目
年次	時期					
1年次	通年		社会調査論（通年）			
	前期	教育学概論	日本史概論		憲法	コンピュータリテラシー
		特別支援教育概論	地誌概論		Integrated English I	アカデミックライティング
			経済学概論		スポーツ実技	
			信州地域史		データサイエンス概論	
			現代社会と哲学			
		現代社会と倫理学				
	後期	教職概論	東洋史概論	学校体験活動Ⅰ	スポーツ実技Ⅱ	プログラミング基礎
		教育心理学	西洋史概論	発達障害教育総論	(データサイエンス概論)	
		社会科指導法基礎	社会学概論			
			哲学概論			
			倫理学概論			
			社会思想史			
	2年次	通年			学校体験活動Ⅱ（通年）	
前期		教育課程論	地理学	介護等体験		コミュニケーション論
		教育制度・経	法学概論			
		特別活動および総合的な時間の指導法	地方自治論			
		社会科・地歴科教育法A				
		社会科・地歴科教育法B				
		社会科・公民科教育法A				
後期		道徳教育の指導法	政治学概論			ファシリテーション論
		教育の方法及び情報通信技術を活用した	観光地理学			
		社会科・公民科教育法B	行政学			
			持続可能な地域づくり論			
3年次	前期	生徒指導論 進路指導論				価値創造論
	後期	教育相談の理論と方法	歴史の見方			新聞で現代社会を考える
		教育実習指導				
4年次	通年	教育実習1				
	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

<地域経営学科> (認定課程：高一種免 (公民))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>学校教育の最新事情について学び、令和の日本型学校教育を支える教師のあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学概論では、教育とは何かについて理解する。 ・特別支援教育概論では、特別支援教育の理念・内容について理解するとともに教師として一人一人の児童生徒にいかに向き合うかについて学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学概論では、雇用や物価など国民経済に影響を与えるメカニズムや、消費者と生産者の最適選択をもとにした需要・供給の法則などの基礎を学び、高等学校公民科の指導法に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校公民科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について修得する。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」については、MDASHのリテラシーレベルに該当する科目であるデータサイエンス概論の修得を通して、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識を獲得する。
	後期	<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解し、学校現場体験も踏まえて自らの教職キャリア形成について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職概論では、教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教育心理学では、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を理解し、発達段階に応じた指導の基礎となる考え方を習得する。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学概論では、代表的な哲学者の思想について学び、過去の哲学者はどのような人間観、世界観から人類思想について考えてきたのか理解し、高等学校公民科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・倫理学概論では、古代から現代にかけて登場した倫理思想を概観することを通じて、倫理学が歴史的にどのように展開してきたのか、そうした倫理思想を現代社会に存在する問題の解決にどのように使うのか理解し、高等学校公民科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校公民科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、教育職員免許法施行規則第66条の6に定められている「体育」に関する科目 (スポーツ実技Ⅱ) を履修する。
2年次	前期	<p>教科の指導法や教育課程論を通じて授業作りのあり方について学ぶ。また、学校体験活動を通じて、教師の専門性や共生社会を実現する上での教師の役割について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論では、教育課程の意義や編成の方法を学修し、各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ・教育制度・経営では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・特別活動および総合的な時間の指導法では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえて展開される総合的な学習の時間の指導法に必要となる知識や素養を身に付ける。 ・社会科・公民科教育法Aでは、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法学概論では、憲法と民法という最も基本的とされる法を取り上げ、どのような特徴を持ったルールであるのかを学び社会人としてのリーガルマインドを高めるとともに、高等学校公民科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校公民科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。

	後期	<p>教科の指導法を通じて授業作りのあり方について学ぶとともに、ICT教育の理論や方法を踏まえた教育の方法・技術について身に付ける。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・社会科・公民科教育法Bでは、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治学概論では、現代の日本政治を形成している公式・非公式の制度を学び、日本における政治的支配構造がどのような状況にあるのか社会科学の手法をもとに理解し、高等学校公民科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。
3年次	前期	<p>2年次までの学修を踏まえ、生徒指導・進路指導に関する指導のあり方について理解するとともに、具体的な教職キャリアの道筋について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導論では、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ・進路指導論では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。
	後期	<p>教育実習指導を通じ、具体的な教師としての姿を描き、教育実習に向けた準備を進める。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の理論と方法では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。 ・教育実習指導では、教育実習に臨むにあたって特に学習指導のあり方について学ぶ。
4年次	前期	<p>3年次までに座学および現場で学んできたことを生かして教育実習を行い、教師の仕事の具体と自らの教師としてのあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習では、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
	後期	<p>4年間教職で学んできたこと、大学で学んだことを総括し、卒業後の自らの教職キャリアについて考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習では、教職課程の科目の履修により習得した専門的な知識・技術を基に、職務を遂行できる資質・能力が身についているかを確認するとともに、不足している知識・技能を補い、自らの教職への適性を考える。

様式第7号ウ（教諭）

<地域経営学科>（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	通年		社会調査論（通年）			
	前期	教育学概論	経済学概論		憲法	コンピュータリテラシー
		特別支援教育概論	現代社会と哲学		Integrated English I	アカデミックライティング
			現代社会と倫理学		スポーツ実技 I	
					データサイエンス概論	
	後期	教職概論	社会学概論	学校体験活動 I	スポーツ実技 II	プログラミング基礎
		教育心理学	哲学概論	発達障害教育総論	(データサイエンス概論)	
			倫理学概論			
			心理学			
	2年次	通年			学校体験活動 II（通年）	
前期		教育課程論	法学概論			コミュニケーション論
		教育制度・経営	地方自治論			地域イノベーション論
		特別活動および総合的な時間の指導法	地域社会学			コミュニティ・デザイン論
		社会科・公民科教育法A	国際社会学			環境政策論
後期		教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法	政治学概論	道徳教育の指導法		ファシリテーション論
		社会科・公民科教育法B	行政学			地域交通論
			地域経済学			
			持続可能な地域づくり論			
3年次		前期	生徒指導論			
	進路指導論					地産地消論
						公共政策論
	後期	教育相談の理論と方法				新聞で現代社会を考える
		教育実習指導				都市計画論
4年次	通年	教育実習 2				
	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

<地域経営学科>(認定課程:高一種免(地理歴史))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>学校教育の最新事情について学び、令和の日本型学校教育を支える教師のあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学概論では、教育とは何かについて理解する。 ・特別支援教育概論では、特別支援教育の理念・内容について理解するとともに教師として一人一人の児童生徒にいかに向き合うかについて学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本史概論では、原始・古代・中世・近世・近現代の各時代の特色に留意しつつ、幅広い視野で日本史全体の流れを理解し、高等学校地歴科の指導法に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・地誌概論では、地域を的確にとらえるために必要となる地誌学に関する基本知識の習得と、地域を総合的に分析し、地域性を導出する思考力を涵養し、高等学校地歴科の指導法に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校地歴科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について修得する。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」については、MDASHのリテラシーレベルに該当する科目であるデータサイエンス概論の修得を通して、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識を獲得する。
	後期	<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解し、学校現場体験も踏まえて自らの教職キャリア形成について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職概論では、教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教育心理学では、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を理解し、発達段階に応じた指導の基礎となる考え方を習得する。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋史概論では、中国史がどのように推移したのか、その関係性から周辺諸国(日本を含む)はどのような影響を受けていたのか理解し、高等学校地歴科の指導法に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・西洋史概論では、ヨーロッパを中心とした地域の歴史について学び、日本に多大な影響を与えた近代諸制度揺籃の地であるヨーロッパ世界の形成・発展を基軸にして、西洋における諸問題や諸制度について理解し、高等学校地歴科の指導法に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校地歴科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p><教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「体育」に関する科目(スポーツ実技Ⅱ)を履修する。
2年次	前期	<p>教科の指導法や教育課程論を通じて授業作りのあり方について学ぶ。また、学校体験活動を通じて、教師の専門性や共生社会を実現する上での教師の役割について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論では、教育課程の意義や編成の方法を学修し、各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ・教育制度・経営では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・特別活動および総合的な時間の指導法では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえて展開される総合的な学習の時間の指導法指導に関わる必要な知識や素養を身に付ける。 ・社会科・地歴科教育法A/Bでは、社会科で育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学では、地域ごとの差異を生じさせる、地域が有する自然環境や人文環境という地理的条件を分析するための概念や理論について理解し、高等学校地歴科の指導法に必要な専門的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校地歴科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。

	後期	<p>ICT教育の理論や方法を踏まえた教育の方法・技術について身に付けるとともに、学校体験活動を通じて今の生徒の学びのあり方と対比させながら、情報通信技術を活用した指導の有効性について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・道徳教育の指導法では、道徳教育に関する課題をについて主体的に追究し、解決する活動を通して、道徳教育の実践に必要な資質・能力を身につける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学修を通して、高等学校地歴科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
3年次	前期	<p>2年次までの学修を踏まえ、生徒指導・進路指導に関する指導のあり方について理解するとともに、具体的な教職キャリアの道筋について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導論では、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ・進路指導論では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学修を通して、高等学校地歴科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
	後期	<p>教育実習指導を通じ、具体的な教師としての姿を描き、教育実習に向けた準備を進める。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の理論と方法では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。 ・教育実習指導では、教育実習に臨むにあたって特に学習指導のあり方について学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の見方では、歴史学的な手法を使って現代社会の諸問題を考察できるようになる。
4年次	前期	<p>3年次までに座学および現場で学んできたことを生かして教育実習を行い、教師の仕事の具体と自らの教師としてのあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習では、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
	後期	<p>4年間教職で学んできたこと、大学で学んだことを総括し、卒業後の自らの教職キャリアについて考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習では、教職課程の科目の履修により習得した専門的な知識・技術を基に、職務を遂行できる資質・能力が身についているかを確認するとともに、不足している知識・技能を補い、自らの教職への適性を考える。

様式第7号ウ（教諭）

<地域経営学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的 事項に関する科目	大学が独自に設 定する科目	施行規則第66 条の6に関する 科目	その他教職課程 に関連のある科 目
年次	時期					
1年次	前期	教育学概論	日本史概論		憲法	コンピュータリテラシー
		特別支援教育概論	地誌概論		Integrated English I	アカデミックライティング
			信州地域史		スポーツ実技 I	
	後期				データサイエンス概論	
		教職概論	東洋史概論	学校体験活動 I	スポーツ実技 II	プログラミング基礎
		教育心理学	西洋史概論	発達障害教育総論	(データサイエンス概論)	
		社会思想史				
2年次	通年			学校体験活動 II (通年)		
	前期	教育課程論	地理学			コミュニケーション論
		教育制度・経営	地域環境論			
		特別活動および総合的な時間の指導法				
		社会科・地歴科教育法A				
		社会科・地歴科教育法B				
	後期	教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法	観光地理学	道徳教育の指導法		ファシリテーション論
		環境教育論				
3年次	前期	生徒指導論	近代日本の歩み			価値創造論
		進路指導論				
	後期	教育相談の理論と方法	歴史の見方			新聞で現代社会を考える
		教育実習指導	日中関係史			
4年次	通年	教育実習 2				
	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜共創情報科学科＞（認定課程：高一種免（数学））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>学校教育の最新事情について学び、令和の日本型学校教育を支える教師のあり方について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学概論では、教育とは何かについて理解する。 ・特別支援教育概論では、特別支援教育の理念・内容について理解するとともに教師として一人一人の児童生徒にいかに向き合うかについて学ぶ。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形代数学概論では、ベクトルと行列の定義から講義を始め、ベクトルと行列の演算、ベクトル空間、行列式、行列の固有値・固有ベクトルについて学修し、高等学校数学科の指導に必要な基礎的知識を獲得する。 ・確率統計基礎では、統計データとそのまとめ方について、1変数と2変数について学修し、高等学校数学科の指導に必要な基礎的知識を獲得する。 <p>＜教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」については、MDASHのリテラシーレベルに該当する科目であるデータサイエンス概論の修得を通して、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識を獲得する。
	後期	<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解し、学校現場体験も踏まえて自らの教職キャリア形成について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職概論では、教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教育心理学では、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を理解し、発達段階に応じた指導の基礎となる考え方を習得する。 ・数学科教育法Aでは、近年の中央教育審議会答申あるいは現行学習指導要領の内容を理解し、個別最適な学びを実現するための数学の授業論について学ぶ。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微積分学概論では、関数に関する様々な性質から講義を始め、関数の極限、微分とその応用、積分とその応用、広義積分まで学修し、高等学校数学科の指導に必要な基礎的知識を獲得する。 ・コンピュータ数学では、効率のよいプログラムを書くためのアルゴリズムの解析や設計、暗号理論のための代数学など、数学の学問分野のなかでコンピュータを理解するうえで直接的に用いられる数学について学修し、高等学校数学科の指導に必要な基礎的知識を獲得する。 ・専門科目の学修を通して、高等学校数学科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p>＜教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「体育」に関する科目（スポーツ実技Ⅱ）を履修する。
2年次	前期	<p>教科の指導法や教育課程論を通じて授業作りのあり方について学ぶ。また、学校体験活動を通じて、教師の専門性や共生社会を実現する上での教師の役割について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論では、教育課程の意義や編成の方法を学修し、各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ・教育制度・経営では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・特別活動および総合的な時間の指導法では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえて展開される総合的な学習の時間の指導法指導に関わる必要な知識や素養を身に付ける。 ・数学科教育法Bでは、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な授業展開を実際の授業を参観しながら学ぶとともに、探求的な学びを実現するための指導方略について演習形式で実践する。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学修を通して、高等学校数学科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。

	後期	<p>ICT教育の理論や方法を踏まえた教育の方法・技術について身に付けるとともに、学校体験活動を通じて今の生徒の学びのあり方と対比させながら、情報通信技術を活用した指導の有効性について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学修を通して、高等学校数学科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
3年次	前期	<p>2年次までの学修を踏まえ、生徒指導・進路指導に関する指導のあり方について理解するとともに、具体的な教職キャリアの道筋について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導論では、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ・進路指導論では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の学修を通して、高等学校数学科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
	後期	<p>教育実習指導を通じ、具体的な教師としての姿を描き、教育実習に向けた準備を進める。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の理論と方法では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。 ・教育実習指導では、教育実習に臨むにあたって特に学習指導のあり方について学ぶ。
4年次	前期	<p>3年次までに座学および現場で学んできたことを生かして教育実習を行い、教師の仕事の具体と自らの教師としてのあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習では、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
	後期	<p>4年間教職で学んできたこと、大学で学んだことを総括し、卒業後の自らの教職キャリアについて考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習では、教職課程の科目の履修により習得した専門的な知識・技術を基に、職務を遂行できる資質・能力が身に付いているかを確認するとともに、不足している知識・技能を補い、自らの教職への適性を考える。

様式第7号ウ（教諭）

<共創情報科学科>（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育学概論	線形代数学概論		憲法	コンピュータリテラシー
		特別支援教育概論	確率統計基礎		Integrated English I	アカデミックライティング
					スポーツ実技 I	コンピュータサイエンス
	後期				データサイエンス概論	電気電子回路
		教職概論	微分積分学概論	学校体験活動 I	スポーツ実技 II	情報デザイン
		教育心理学	コンピュータ数学	発達障害教育総論	(憲法)	
		数学科教育法A	線形代数学		(データサイエンス概論)	
		プログラミング基礎				
2年次	通年			学校体験活動 II (通年)		
	前期	教育課程論	微分積分学			データビジュアライゼーション
		教育制度・経営	確率統計			人工知能演習
		特別活動および総合的な時間の指導法	人工知能概論			情報ネットワーク
	後期	数学科教育法B				
		教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法	離散数学	道徳教育の指導法		数理意思決定論
			応用数学			
		計画数学				
3年次	前期	生徒指導論	動的システム論			
		進路指導論	パターン認識とメディア処理			
			アルゴリズムとデータ構造			
			ファジィ理論			
		数値計算法				
	後期	教育相談の理論と方法				記号論理学
4年次	通年	教育実習 2				
	前期					
	後期	教職実践演習				情報セキュリティ

様式第7号ウ

＜共創情報科学科＞(認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>学校教育の最新事情について学び、令和の日本型学校教育を支える教師のあり方について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学概論では、教育とは何かについて理解する。 ・特別支援教育概論では、特別支援教育の理念・内容について理解するとともに教師として一人一人の児童生徒にいかに向き合うかについて学ぶ。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシー、コンピュータサイエンス、HCD概論の学修を通じて、高等学校情報科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p>＜教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について修得する。「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」については、MDASHのリテラシーレベルに該当する科目であるデータサイエンス概論の修得を通して、数理・データサイエンス・AIに関する基本的な知識を獲得する。
	後期	<p>教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解し、学校現場体験も踏まえて自らの教職キャリア形成について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職概論では、教職の意義及び教員の役割・職務内容について理解する。 ・教育心理学では、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を理解し、発達段階に応じた指導の基礎となる考え方を習得する。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング基礎、コンピュータ数学の学修を通じて、高等学校情報科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。 <p>＜教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、教育職員免許法施行規則第66条の6に冷められている「体育」に関する科目(スポーツ実技Ⅱ)を履修する。
2年次	前期	<p>教科の指導法や教育課程論を通じて授業作りのあり方について学ぶ。また、学校体験活動を通じて、教師の専門性や共生社会を実現する上での教師の役割について考える。</p> <p>＜各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程論では、教育課程の意義や編成の方法を学修し、各字校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ・教育制度・経営では、現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・特別活動および総合的な時間の指導法では、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、各教科等との往還的な関連や組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえて展開される総合的な学習の時間の指導法に指導に関わる必要な知識や素養を身に付ける。 ・情報科教育法Aでは、近年の中央教育審議会答申あるいは現行学習指導要領の内容を理解し、「情報Ⅰ」で生徒が身につけるべき資質能力について、「情報」の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。 <p>＜教科に関する専門的事項に関する科目の目標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワーク、データビジュアライゼーションの学修を通じて、高等学校情報科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。

	後期	<p>教科の指導法を通じて授業作りのあり方について学ぶとともに、ICT教育の理論や方法を踏まえた教育の方法・技術について身に付ける。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・情報科教育法Bでは、共通教科「情報Ⅰ」及び専門教科「情報Ⅱ」で生徒が身につけるべき資質能力について、「情報」の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータシステムの学修を通じて、高等学校情報科の指導に必要な基礎的知識を身に付ける。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
3年次	前期	<p>2年次までの学修を踏まえ、生徒指導・進路指導に関する指導のあり方について理解するとともに、具体的な教職キャリアの道筋について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導論では、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 ・進路指導論では、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者倫理では、事例研究などを通して、科学技術のプラス面もマイナス面も含めて社会全体の問題として捉え、技術者の倫理的・社会的責任を理解する。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
	後期	<p>教育実習指導を通じ、具体的な教師としての姿を描き、教育実習に向けた準備を進める。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の理論と方法では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。 ・教育実習指導では、教育実習に臨むにあたって特に学習指導のあり方について学ぶ。 <p><教科に関する専門的事項に関する科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイバーフィジカルシステムでは、モバイルコンピューティングの仕組みとIoTの仕組みを学び、現実空間とサイバー空間の融合を促すサイバーフィジカルシステムの各種技術とそれを利用したビジネスや生活の現状と将来、脅威について理解する。 ・専門科目の学修を通して、高等学校情報科の指導に必要な専門的知識を身に付ける。
4年次	前期	<p>3年次までに座学および現場で学んできたことを生かして教育実習を行い、教師の仕事の具体と自らの教師としてのあり方について考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習では、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
	後期	<p>4年間教職で学んできたこと、大学で学んだことを総括し、卒業後の自らの教職キャリアについて考える。</p> <p><各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習では、教職課程の科目の履修により習得した専門的な知識・技術を基に、職務を遂行できる資質・能力が身についているかを確認するとともに、不足している知識・技能を補い、自らの教職への適性を考える。

様式第7号ウ（教諭）

<共創情報科学科>（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育学概論	コンピュータサイエンス		憲法	アカデミックライティング
		特別支援教育概論	電気電子回路		Integrated English I	線形代数学概論
			情報デザイン基礎		スポーツ実技 I	確率統計基礎
					データサイエンス概論	
	後期	教職概論	プログラミング基礎	学校体験活動 I	スポーツ実技 II	微分積分学概論
		教育心理学	コンピュータ数学	発達障害教育総論	(憲法)	線形代数学
			情報デザイン		(データサイエンス概論)	
2年次	通年			学校体験活動 II (通年)		
	前期	教育課程論	情報ネットワーク			コミュニケーション論
		教育制度・経営	データビジュアライゼーション			微分積分学
		特別活動および総合的な時間の指導法	人工知能概論			確率統計
		社会科・公民科教育法A				
	後期	教育の方法及び情報通信技術を活用した指導法	コンピュータシステム	道徳教育の指導法		ファシリテーション論
		社会科・公民科教育法B	コンピュータシステム演習			計画数学
			センシング技術			離散数学
		深層学習 I			情報デザイン演習	
3年次	前期	生徒指導論	技術者倫理			価値創造論
		進路指導論	アルゴリズムとデータ構造			動的システム論
			数値計算法			
			深層学習 II			
	後期	教育相談の理論と方法	サイバーフィジカルシステム			
		教育実習指導	情報セキュリティ			
4年次	通年	教育実習 2				
	前期					
	後期	教職実践演習				